

古典女踊り 総掛（かしかき）

1. 干瀬節（ふいし ぶし）

七読みと二十読 総掛けて置きゆて（ななよみとう はていん かしかきてい うちゆてい）
里*が蜻蛉羽 御衣よすらね（さとうが あけずばに んしゅゆしらに）

【 訳 】

七読二十読 細やかに総（糸）を掛け
愛しいあの人のために とんぼの羽のような美しい布を織ります

* 「里」とは愛しい人の意です

2. 七尺節（しちしゃく ぶし）

杵ぬ糸総に 繰り返し返し（わくぬ いたうかしに くりかいしがいし）
掛けて面影の て立ちゆさ（かきてい うむかじぬ まさてい たちゆさ）

総かけて伽や ならぬものさらめ（かしかきてい とうじや ならんむぬさらみ）
繰り返し返し 思ど増さる（くりかいし がいし うみどう まさる）

【 訳 】

杵に糸を 繰り返し繰り返し巻きつけて
あなたへの思いをまぎらわせようとするのですが
繰り返し繰り返し糸を巻くごとに
あなたへの思いがつのってくるのです

3. さあさあ節

総も掛け満ちて できやよ立ち戻ら（かしん かきみちてい でいかよ たちむどうら）
里や吾が宿に 待ちゆらだいもの（さとうや わがやどうに まちゆら でむぬ）

【 訳 】

総もすっかりかけ終ったから、さあ帰ろう
愛しいあの人 が 家で待っていらっしやるだろうから

ピーアールプロモーション沖縄（沖縄県立郷土劇場）

転載を禁じます